

教科	学年科目	集計結果の分析	来年度に向けての課題
国語	1 現代の国語	他者と意見の交換や解答の確認を行うことが定着したことで、生徒自身が新しい考え方に触れ、自らの考えを深めることが少しずつ実感されたと思う。	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた項目がまだ3点を超えないため、生徒の実感を高めていく工夫が必要である。
	1 言語文化	授業のねらいや振り返りが明確化することができたと思われる。その一方で、他者の考えに触れる機会が減ったと感じる生徒もいるようなので、グループワークやペアワークなどの意見交換の場を増やす必要がある。	一人一台端末を活用し、自分で考えをまとめる力や他者の考えに触れる機会を増やしたい。他者の考えを踏まえ、自らの価値観を広げられるように授業を行いたい。
	2 現代文B	授業の中で、ペアワーク等意見・考えを交流する機会を多く設けたことや到達目標を明確に示したことが結果に表れている。自らの考えと知識を関連づけられるような指導を工夫する必要がある。	自己の思考を表現する技術や持っている知識を生かす方法について、多様な視点を考えさせながら習得させるようにしたい。
	2 古典A	概ね良好であった。既習事項との結びつきを特に重視した活動を増やしたことで、「既習事項と関連づけて理解し」、「できるようになったことを実感できた」という項目においてポイントが上昇したと考えられる。	引き続き既習事項との関連づけを意識した教材研究・授業づくりに努め、必要に応じて問題演習や視覚教材を用いた解説を行うなど、一層の工夫をしていきたい。
	2 古典理解	2単位で授業時間も少ない中で、短期間に効率的に読解力を養成するために、文法重視の授業を展開したため、やや一方的な授業となってしまった。通年で学習することで、文法の基本事項を養成できた。	古典作品における常識や基礎文法の学習を継続して進めつつ、現在を生きる自分たちと古典作品内人物の思考の共通点や違いについて考えを深める時間を設けられるよう努めたい。
	3 現代文B	グループワーク・ペアワークを取り入れ周囲と考えを交流する機会を作ることで、生徒自ら単元について思考することに重点を置いた。また、様々な教材を取り入れたため、ポイントの上昇がみられた。	単元と授業のねらいが明確に伝わるような工夫や展開を心がける。また、様々な教材を用いて、比較する機会を増やすなどして生徒の思考力、読解力、表現力を高めていきたい。
	3 古典B	1, 2年での既習事項の復習だけを行うことはできず、得意ではない生徒は苦戦したと思うが、頑張っていた。理解できている生徒が増えている。	3年になるまでに個々の差がずいぶん開いているようなので、早い段階で復習することを心がけ、問題演習に取り組ませたい。
地歴公民	1 歴史総合	前期と比較して学習のねらいを理解していると実感している生徒が増加するとともに、振り返りの機会を設けたことから、自らの考えを深めることができた生徒が多くいることがわかった。	引き続き、単元や学習のねらいを提示しながら授業に参加できるように工夫をしていきたい。また、学習の成果を生徒自身が振り返ることができるように展開していきたい。
	1 公共	前期と比較して、既習事項と関連付けて学習を進めることができた生徒が増加した。他科目との関わりがある単元を扱ったこともあり、生徒が参加しやすい雰囲気を作ることができた。	次年度は授業で得た知識を活用することで、社会の諸問題や課題の解決に主体的に取り組むことができるような展開を工夫していきたい。
	2 世界史A	前期と比較し、全体的に「できるようになった」と実感した生徒が増加した。特に、他人の考えを聞いて自らの見識を深められる力や自分の考えをまとめられる力が伸びたことが分析結果からうかがえる。	次年度は、今年度ついた力をさらに発展させて、「既習事項と関連付けて理解し、それを実生活にも結び付けて考える力」を付けさせたい。
	2 日本史B	全体的に前期の評価よりも高い結果となった。特に、既習事項とのかかわりを感じ、関連付けて理解することができた生徒が多かったようである。	次年度以降も引き続き、既習事項と関連付けながら知識の定着を図るとともに、自分の考えをまとめ解決方法を模索することができるような授業を展開していきたい。
	3 世界史B	前期同様、全体的に良い評価が得られた。特に、「他者に考えを知り、自らの考えを広げ深める機会を多く設けられている」という点が前回より数値が伸びているので、教員の一方的な授業展開にならないよう工夫できたと思われる。	他人の考えを聞いて自らの考えを広げることができているが、自分の考えをまとめることがなかなか難しいようである。次年度は自分で考えをまとめる力を付けさせたい。
	3 地理B	結果を見ると、しっかりとねらいと振り返りができ、授業で得た「知識を用いて解決方法を考える」という項目がしっかりと良い数値を得られ、生徒のうなずきも増え前期の目標であった、自己肯定感の上昇につながられたと思われる。	よりグループワークを増やし、生徒同士で意見を共有し、知識を用いた課題解決を進められるように努めたい。また、ICTを積極的に活用し、より効率的に意見交換ができる場を作りたい。
	3 発展日本史	授業の在り方については前期より若干数値が下がった項目もあるが、既習事項との関連についての数値は大幅に向上した。既習事項との関連を常に意識した結果であると思われる。	授業のテーマ設定やグループワーク等の演習を増やすことで、より深い学びや幅広い知識の定着に努めたい。
	3 世界史研究	前期に引き続き、概ね高評価となっている。番号2に関して前期は3点を下回ったが今回は上回った。とくに何かを変えたわけではないが、生徒にとっての感じ方が変化したと思われる。	毎時間テーマを設定し、問をたて、その問いに関して解決していく授業をこころがけ、深い学びにつなげる。
	3 日本史研究	全ての項目で前期を上回る数値を出すことができた。授業に対する理解度も向上していると思われる。	他者の考えと比較して、自らの考えを広げるような対話型の授業がなかなかできなかった。次年度以降の課題である。
3 地理研究	前期同様、「自らの考えを深める」ことができたと思実感した生徒が多かった。毎時間、少しずつ生徒同士で考える時間を作っていたことが良かったと考える。	しっかりとしたテーマを設定、提示し、生徒と情報をより共有できるようにしたい。	

数学	1	数学Ⅰ・A	概ね良好であり、前期と比べて全ての項目で上昇した。授業でのねらいを理解している生徒が増えた。	伸びてはいるが、授業でのねらいの理解や、振り返りが最も評価が低いので、授業前後に余裕を持たせねらいの確認や振り返りに時間を割く。
	2	数学Ⅱ	概ね良好であるが、「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の割合が低くなっている。生徒同士で教え合う機会を作る必要がある。	大学受験を見据えて、基礎学力の定着のみならず、受験を意識した学習法の定着、入試問題を解くことができる応用力を身につけさせたい。
	2	数学B	受験問題を多く扱い、授業を進めたことで「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。」という項目が上昇した。	大学受験を見据えて、基礎学力の定着のみならず、受験を意識した学習法の定着、入試問題を解くことができる応用力を身につけさせたい。
	3	数学Ⅲ	授業内で積極的にペアワークの活動を取り入れることで、より他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会を増やすことができた。	受験問題演習の際、1つの問題に対して別解を考えたり条件を変えたりしながらより内容を深められるような場面を設定していきたい。
	3	数学探究ⅠAⅡB	7項目中6項目で前期の評価を上回ることができた。特に前期の反省を活かし、問題演習の中でも身に付けさせたい考え方を示すことで、ねらいを明確にすることができた。	後期は進路が確定して授業に対するモチベーションが低下する生徒もいるため、年間を通して継続的に取り組ませるための工夫が必要である。
	3	実践数学ⅠA	演習中心の授業ということもあり、例題を生徒が解く授業を行った。指名して黒板に解答させることも考えたが、解答を配っているので時間をとって解説をした。	来年以降未開講です。
理科	3	発展数学ⅡB	演習中心の授業ということもあり、課題について自分の考えをまとめ解決する場面を多く取り入れることができた。別解等を考えることで既習分野と関連付けて学習することもできた。	問題演習の際、1つの問題に対して別解を考えたり条件を変えたりしてより深められる場面を設定していきたい。
	1	物理基礎	グループワーク等で他者の考えに触れる機会を増やすことができた。教科を通して知識を身につけたりできることを増やしていくことができた。	物理そのものに興味を持ってもらうことが課題である。
	1	化学基礎	授業で扱う内容が難化したこともあり、できるようになった実感の項目について低い評価となった。自らの考えを広げ深める機会や課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面は少なかった。	難しい問題についてもスモールステップを意識した教材作りや発問を心がけ、他者の考えを知ることができるようICT教材を多く活用していく。
	2	物理基礎	授業内容も難易度が増したため、評価はやや低下してしまっていた。	難易度の高い内容でも興味をひく工夫が必要になる。
	2	化学基礎	授業で扱う内容が難化したこともあり、できるようになった実感の項目について低い評価となった。教え合う場面が増えたことで、他者の考えを知ることができたと感じる生徒が増えた。	難しい問題についてもスモールステップを意識した教材作りや発問を心がける。
	3	物理＋発展物理	授業への取り組みはとともよい。自分が理解したことや意見・考えを発信し共有する時間が少なかった。	問題演習や実験をした際の考察・結果を共有する時間をより設けていく。視聴覚教材やICT教材を用いて、より知識の定着度を高めるための工夫が必要である。
	3	化学＋発展化学	10月から演習の授業に取り組んだため、主体的な学習傾向がみられるようになった。	知識の定着を図るため基礎的な問題を中心に問題演習を増やし、復習の頻度も増やしていく。また、前期より思考力・判断力・表現力を問う問題を多く扱っていく。
3	生物＋発展生物、文型選択(生物)	授業への取り組みはよく、授業の内容に関する理解はできているようである。実験や観察を通して考えを広げたりまとめたりする機会を多く設けることができた。	引き続き、復習や振り返りを含めた学習習慣の定着を促していきたい。また、実験・観察等を通じた学びの機会や発表・表現・意見交換、視聴覚教材の活用などを積極的に行っていきたい。	

保健 体育	1	体育	前期と比較して、授業の在り方についても指導方法についても評価が大幅に上昇した。	特に授業の中で身につけて事やできるようになったことを実感することができた生徒が多かったので、今後も達成感を感じさせることのできる授業を工夫していく。
	1	保健	多くの教員がICTを活用し、わかりやすい授業の構築を目指した結果、すべての項目で、前期を上回ることができた。	振り返りの評価が少し低いので、授業ごと、単元ごとに振り返りを行い知識の定着に繋げていきたい。
	2	体育	概ね良好であった。単位数が少ないが全体的に積極的な姿勢が見えた。すべての項目で前期よりも上昇した。特に課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面があった点が大幅に上昇した。	他者とのかかわりを多くし、グループの課題や個人の課題を解決するような授業展開を多く設定していきたい。また、生涯を通して運動に親しむ基礎的な技能や関心を高めて行くことが課題である。
	2	保健	全ての項目で前期を上回る数値を出すことができた。特に「他者の考えを知り、自らの考えを上げ深める機会がある」が大幅に向上した。授業などでそのような機会を多く取り入れたことが影響している。	授業の中で身につけたことや、できるようになったことを実感することができた項目が低かったので実践力を高める授業展開を考えることが課題である。また、生徒全体が積極的に授業へ参加できる環境を作っていく。
	3	体育	全体的に概ね良好な評価が得られた。その中でも、授業の中でできるようになったことを実感できる生徒や、知識や課題解決方法が身に付いた生徒が多かったようである。	できるようになる実感をもたせることを大切にしながら、他者との交流をはかったり、自らの考えを広げる機会を多くつくっていきたい。
芸術	1	音楽Ⅰ	課題を通じて、視野を広げたり、技術的な成果を実感できる生徒が増えたようである。	課題の提示の仕方と目的意識を明確にして授業に取り組めるように、授業の進め方を工夫したい。
	1	美術Ⅰ	前期と比べほぼ全ての項目で数値が上がっていることから、前期よりも落ち着いて意欲的に学習に取り組めたようである。	単元ごとのアンケートや興味のあることなどについて教科独自に調査を行い、取り扱う内容の再検討をする。
	2	音楽Ⅱ	授業の課題、特に表現活動を積極的に取り組むことにより、自己の成長や成果を実感できたようである。	課題を提示する際に、主体的な活動の意識づけを明確にできるように、工夫したい。
	2	美術Ⅱ	前期と比べてほぼ全ての項目で数値が上がっていることから、より意欲的に主体性を持って課題に向き合う姿勢が醸成されたことが伺える。	新たな題材を実践したので、特にそれについて今年度の気づきを元に改善する。
	3	自由選択 (ソルフェージュ)	課題に取り組む際に技術的な習得を最優先してしまい、視野を広げたり、考えを深めていくことがおろそかになってしまった傾向がある。半面、技術を身に付け、将来に生かせる方向づけは確認できたようである。	如何なる課題でも、音楽の魅力を実感できるものであるように、課題の提示の仕方を工夫したい。
3	自由選択(素描)	前期と比べてほぼ全ての項目で数値が上がっていることから、より深く思考し表現を追求する姿勢が醸成されたことが伺える。	同様の課題も3年目となるので、力を発揮しきれない生徒のサポートまで行き届くようにする。	
英語	1	英語コミュニケーションⅠ	全ての項目で前期を上回る数値だった。一番伸びた項目は「ねらい・振り返り」であり、前期で立てた目標である「既習事項と関連付けた授業展開」を意識した結果だと思われる。	「ねらい・振り返り」が一番伸びたとはいえ、高い数字とはいえないため、生徒により明確にねらいを伝え、そのねらいと関連付けて振り返りができるよう工夫したい。
	1	論理表現Ⅰ	ほぼ全ての項目において前期を上回った。「ねらい・振り返り」と「既習事項との関連付け」という項目において特に伸びが見られた。	各項目の数値を見ると、「ねらい・振り返り」の項目が最も低くなっている。毎回の授業において授業の目標を設定し生徒に伝え、既習事項と関連付けながら学習をすすめていきたい。
	2	コミュ・英語Ⅱ	微増ではあるが、前期に比べて評価が上がっている項目が多かった。特に、「自分の考えをまとめたり課題解決の方法を考えたりする」の項目の評価が上昇していた。	「できるようになったことを実感」の項目が比較的低いので、どうしたら生徒ができるようになった実感を持てるようになるのかを確認し、実行に移したい。
	2	英語表現Ⅱ	概ね良好であったが、中には授業に対する理解、取組などに問題を抱えている生徒もいることが課題である。	全体的には良好である評価だが、他者の考えを共有し、自分の考えをまとめるという点が比較的低かった。来年度はアウトプットの時間を意識的に多くとり、自分の伸長をより実感できる授業にしたい。
	3	コミュ・英語Ⅲ	「他者の考えを知り、自らの考えを上げ深める」の項目で高い評価を得た。一方で、「自分の考えをまとめる活動」の項目の評価が下がった。	文章を読んで終わりではなく、その内容について考えたことをまとめる機会を増やしていきたい。
	3	英語表現Ⅱ	「できるようになったことを実感することができた」「自らの考えを上げ深めることができた」の項目で前期より評価があがった。	授業や単元の始まりに学習のねらいを示したり、学習の後に振り返ったりする機会を増やす必要がある。
3	発展英語	前期に比べ、全ての項目でポイントが上昇した。既習事項と結び付けて授業に参加できるようになった生徒が増えた。	既習事項と結び付け自分の考えを英語で表現していくことで、より生徒ができるようになったことを実感できるようにする。	
情報	3	社会と情報	他者の考えを知り、自らの考えを上げ深める機会や自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面に低評価が見られた。	他者の考えを共有し、自らの考えを広げる機会を増やす授業展開を考えていく。また、自分の考えをまとめ、解決方法について考えるという点において、思考する時間を増やしていきたい。